

博物館だより

No.21

平成20年1月1日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

「三重塔すす払い」を実施!

12月1日(土)博物館友の会恒例の国分寺三重塔すす払い(清掃)が行われました。ボランティア参加の呼びかけに22名の方が応じて下さり、寒天の中みやこ町のシンボルの清掃に汗を流していただきました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました!

友の会主催

文化講演会のお知らせ

友の会が主催する文化講演会が以下の日程で行われます。会員外の方も聴講いただけますのでぜひご参加ください。

■日時 2月3日(日)
13時30分

■場所 博物館 研修室

■講師 九州大学名誉教授

西谷 正 先生

■演題 「古代京都郡の外来文化」

■備考 会員外の方は、資料代300円(実費)をいただきます。ご協力下さい。

1月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

1月17日(木) 9時30分

【古典仮名講座】

1月10日(木) 9時30分

【古文書講座】

1月26日(土) 10時00分

【初級古文書講座】

1月25日(金) 10時00分

【みやこ学講座】

1月20日(日) 10時00分



12月 三重塔すすらい
今年は天気にも恵まれ外回りも十分清掃できました



5月 みやこ町花しょうぶまつり協賛出店
会場で博物館・友の会PRを行いました

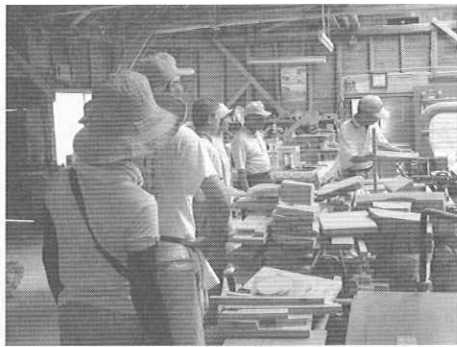


6月 史跡めぐり(ありがたやツアー)
みやこ町内の「ありがた〜い」史跡を見学しました



11月 友の会史跡散策バスハイク
熊本県山鹿市を訪問し装飾古墳館や八千代座を見学

**平成19(2007)年の博物館
いろんなことができました!!**
思いおこせばあんなこと、こんなこと…平成19年の博物館も友の会をはじめ学校や地域の皆さんなど多くの方々の参加と協力をいただきながら、館の内外でさまざまな学習活動を展開してきました。
平成20年も博物館はふるさとを楽しく学び・発見し、守り、伝えてゆくため頑張ります!どうぞよろしくお願いたします!



7月 歴史講座(みやこ学講座)
山の学習で木地師文化を帆柱・山国に訪ねました



10月 学習支援活動(出前授業)
諫山小学校で古代文化体験。勾玉を作りました



9月 企画展「Cool!ガラス瓶の歴史と美」
寄贈資料逸木コレクション展も大好評!



8月 文化講演会
東京文化財研究所 朽津氏による色の文化史の講演

知ってるつもりの人・モノ・コトに意外なドラマ

みやこの歴史発見伝 ⑩

池をめぐる記録と記憶 2

（センゴロウ池の計画図）

センゴロウ池

文政八年（一八二五）六月、仲津郡本庄村（現みやこ町犀川本庄）で、池普請に従事していた仙五郎という人が、酒を飲んだうえ仲間五人と喧嘩になり、横死するという事件がありました。仙五郎は肥前国島原の人で、どういった経緯かは分かりませんが、本庄村の新池築造にたずさわるため遠く豊前の地まで来ていたのです。

事件後に完成した新池は、土地の小字をとって「前田池」が正式名称とされましたが、地元ではその名はあまり使われず、殆どの場合「センゴロウ池」という通称で呼ばれていました。おそらく、池普請のため島原から来て、当地で亡くなった仙五郎の記憶が、池の通称という形で残ったのではないのでしょうか。あるいは通称とすることで、その霊を供養する意味があったのかもしれませんが、いうことを前号に書きました。

文政七年本庄村新池絵図面

小倉藩では、村を一〇数ヶ村程度にまとめて「手永」という行政区をつくり、各手永に大庄屋を置きました。仲津郡本庄村は長井手永に属していました。その長井

手永の大庄屋が代々所持していた古文書類（永井文書）は、現在九州大学附属図書館付設記録資料館の所蔵ですが、その中の一つに文政七年（一八二四）四月作成の「本庄村新池絵図面」があります。つい最近目録の中に見つけ、記録資料館の許可をいただいて写真撮影を行いました（下の写真）。

結論から言うと、この絵図面は間違いなくセンゴロウ池の計画図です。センゴロウ池が築かれたのは文政八年で、「本庄村新池絵図面」より一年あとのことになりましたが、当時の長井手永大庄屋・長井覚七の公用日記を調べたところ、実はこの池が、当初は絵図面と同じ文政七年に造る予定だったことが分かりました。

長井覚七は、文政七年三月一日に新池の絵図面を、三月二九日には築造の正式な許可申請書を仲津郡奉行に提出しています。ところが、四月下旬になって、絵図面を再び提出するよう郡奉行から求められたので（理由は不明）、覚七はすぐさま作成し、再提出しています。「本庄村新池絵図面」は、この再提出した絵図面の控えです。

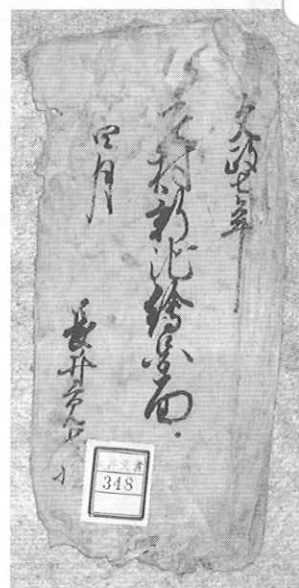
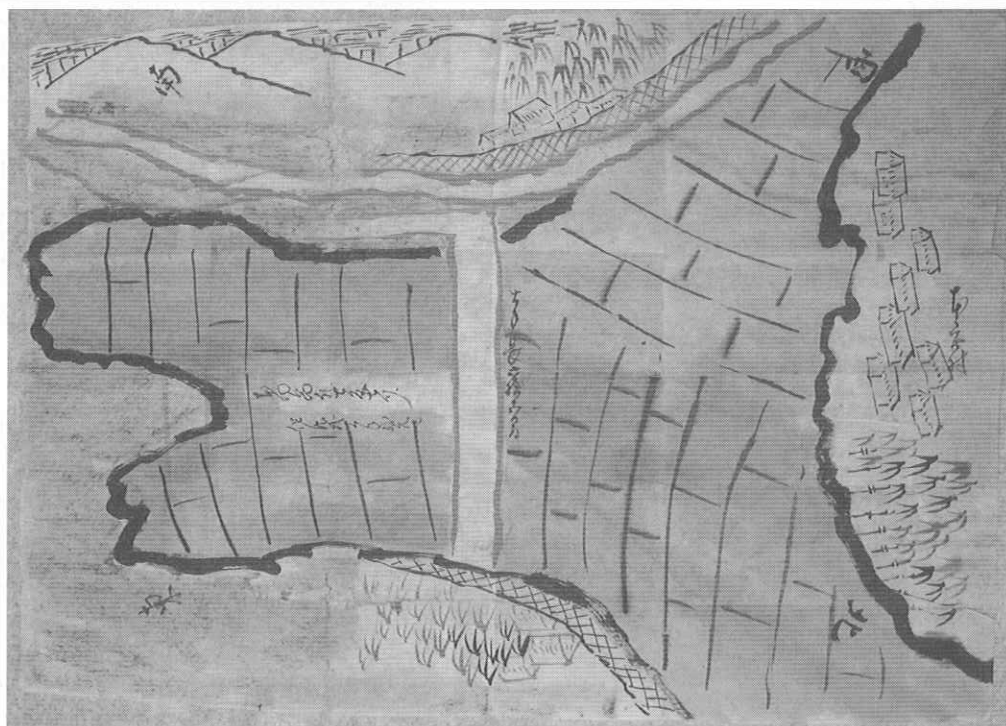
新池築造の許可は同年八月に出たようで、長井覚七は本格的な準備に取り掛かるうとしています。前号で述べたとおり、この池は仲津郡全体で負担を分け合う「郡中普請」として行なわれるものでした。しかし、着工時期についてはなかなか決まらず、長井覚七は、他の大庄屋との調整に苦労したようです。覚七自身は、閏八月一日（新暦一〇月二日）頃の着工を希望していました。

記述のない不思議

しかし、結局文政七年に本庄村の池普請は行われませんでした。理由は、同じ仲津郡の沓尾村（現行橋市沓尾）にあった年貢の収納蔵（沓尾御蔵）の修繕を郡中普請で行なうため、本庄村の新池普請を行なう余裕はない、と判断されたからでした。結局、本庄村新池普請は翌文政八年二月に準備が再開され、実際の工事が始まったのは四月からだったようです。そして、それから一月余りのちに仙五郎横死事件が起きるのでした。

不思議なのは、長井覚七の公用日記の中に、文政八年中に完成したであろう新池（センゴロウ池）の、具体的な完成時期が分かる記述のないことです。同じ日記に、仙五郎事件の事後処理の記述があまりに少ないことと、何か関係あるような気がしてなりません。

（川本英紀）



（収納袋）

▲「本庄村新池絵図面」（永井文書三四八号・九州大学記録資料館所蔵）
 収納袋（右の写真）の表書きから文政七年四月の作成であることが分かる。絵図右端の家並みが本庄村。中央に新造する池土手が図示されている。池脇の道が水で洗われることを防ぐためか、土手はL字形に設計。